

原子力ムラの境界を越えるためのコミュニケーション・フィールドの試行
第2回業務推進全体会合
議事録

日時：平成24年12月7日（金） 13：00～16：00

場所：東京大学工学部12号館2階会議室

出席者：17名（順不同・敬称略）

木村_浩（東大）、足立（元気ネット）、井上（前辰星技研）、植木（元気ネット）、円満字（PONPO）、大石（PONPO）、神崎（PONPO）、鬼沢（元気ネット）、木村_謙（東大）、佐田（JAEA）、篠田（若狭湾エネ研）、白木（MNEC）、竹中（東大）、土田（関西大）、丸山（NV研）、三谷（原子力コミュニケーションズ）、渡辺（新日本PA）

配布資料

- 2-0. 議事次第
- 2-1. 平成24年度メンバー一覧
- 2-2. 第1回業務推進全体会合議事録（案）
- 2-3. 第2回社会調査コアグループ会合 議事メモ
- 2-4. 第2回フォーラム検討会議議事録（案）
- 2-5. 第3回フォーラム検討会議議事録（案）（未完成）
- 2-6. 第6回エネルギーと原子力に関するアンケート（案）
- 2-7. 調査票案 ver.1123（フォーラム参加希望者用）
- 2-8. 調査票案 ver.1205（フォーラム参加希望者用）
- 2-9. 調査票案 ver.1205EX（フォーラム参加希望者用）
- 2-10. フォーラムに関する議論の整理

議題

- 1. 議事録等確認
- 2. 社会調査グループ進捗報告
- 3. フォーラム検討グループ進捗報告
- 4. その他

※議論の詳細については、逐語録に記録されている。

1. 議事録等確認（配布資料 2-1、2-2）

始めに、木村_浩氏より、資料 2-1 に基づき、本業務に関わっているメンバーの確認がなされた。また、連絡先の共有が提案され、承認された。

次に、木村_浩氏より、資料 2-2 に基づき、前回の業務推進全体会合の論点が整理された。

2. 社会調査グループ進捗報告（配布資料 2-3、2-6）

土田氏より、配布資料 2-3、2-6 に基づき、調査票の内容について説明があった。調査票の内容について活発な議論が展開された。以下に概要を示す。

Q1、Q2（2 ページ）

- ・ 不安に「趣味や娯楽」とはどういうことか。
→ 選択肢を揃えるため。不自然なら削除も検討する。
→ 「趣味や娯楽」を入れておくと、社会的な事柄と個人的な事柄、どちらに興味があるかを測ることができるのではないか。
- ・ 「原子力」と「原子力施設の事故」を分ける意図はなにか。
→ 学会の中には「原子力」と「事故」は別物だと考える人が多い。
- ・ 「政治や経済」は括りが広すぎるのではないか。
→ 「政治や経済」の中の具体的にどの点に関心があるかを聞こうとはしていない。「原子力」との比較対象としておいている。
- ・ 普段の生活で「戦争やテロ」を意識している人は少ないのではないか。（日本について、不安な事柄、と聞くなるともかく）
→ 回答が少ないから選択肢から外すという考え方と、回答が少ないことを確認するために入れるという考え方がある。

Q14（4 ページ）

- ・ 「原子力発電があっても発展できない」という意見も汲み取れるようにするべきではないか。
→ 「原子力発電がなくては、日本は経済的に発展できないと思いますか」とする。

Q24（6 ページ）

- ・ サ)、シ)の「自分のところで」という表現は曖昧ではないか。
→ あえて曖昧に聞いている。「自分のところ」をどこだと思っているかは分からないが、「自分のところ」と思っているところに来ることを拒む人がどのくらいいるかは分

かる。

- ・ ク)「個人的には」という単語を入れる意図は何か。
→立場上、嫌いと言えない人もいるだろう。個人としてどう思うか、という意図。
- ・ サ)「被災地瓦礫」は、福島県だけではなく、東北の被災地の瓦礫という意図か。それまでの設問が全て原子力発電、福島県関連なので、「被災地瓦礫」の説明が必要ではないか。
- ・ サ)「被災地瓦礫」とシ)「除染廃棄物」は、一般市民とムラびとで認識の差が大きく出るところのひとつであろう。また、(広い意味での)廃棄物問題は、フォーラムにおいて市民とムラびとが共通の土台で話せる話題のひとつであると思う。その観点から、言葉遣いには工夫が必要ではないか。(曖昧に聞くか、誤解を与えないように聞くかによって、フォーラム時に影響が出てくるだろう)
→サ)とシ)で何を比較するかによって、言葉遣いは変わってくる。
 - 除染廃棄物という言葉は、当事者の間では使われていない。→「除染除去物」「除染作業によって出てきたもの」
 - 「福島県の」と聞くと、サイト内の廃棄物も含まれてしまう。→「一般住宅地から出た～」と書くか。
 - 福島県の除染除去物は、最終処分は県外で行うことになっている。その点をどう思っているかを聞く。→「福島県の」という言葉が必要。
 - 単純に、放射性物質が含まれるか否かの違いを聞く。→放射性物質が含まれる／含まれない瓦礫、などの聞き方になる。
 - 瓦礫がどこで発生したかを明確にして聞く。→「サ)津波によって発生した～」

Q16～19 (7 ページ)

- ・ 「あなたのお考えをおうかがいします」だと、「予測」を聞いているのか、「希望」を聞いているのか区別できない。どちらかに特定すべきではないか。
- ・ 20年後というのは、すなわち今話題になっている2030年代のことだが、「2030年代に」とダイレクトに聞くことはできないのか。
→福島事故以前から同じ質問で聞いているので、経年変化を見る以上、変更は難しい。
「予測」と「希望」を区別する設問は、別に設ける。

Q3 (8 ページ)

- ・ シ)「福島県産」という言葉では、作付禁止地域のこともイメージしてしまうかもしれない。
→「お店で売っている」という言葉を足す。
- ・ サ)はどのような意図の設問か。作業そのものが行なわれていると思うか、という意図か。除染の効果が上がっていると思うか、という意図か。

→作業そのものが行なわれていると思うか、という意図。除染の効果についてはコ)で聞ける。

Q22 (9 ページ)

- ・ 原子力規制庁のことは聞かないのか。→規制庁は規制委員会の事務局であるため。
- ・ 現在市民が関心があることは、規制委員会の人事についてではないか。
→人事については自由回答欄に記入してもらう。
- ・ 「規制庁が活断層かどうか**科学的判断**をし、それを根拠に**再稼働**を決定する」ということが政党マニフェスト等で盛んに言われている。それを明示的に示す項目があってもいいのではないか。
→広い意味ではア) イ) ウ) などに含まれるだろう。明示的に示すならば「原子力発電所の安全性を確認すること」という項目を入れてはどうか。
- ・ ク)「啓蒙活動」は規制委員会の所掌でないのではないか。
→「期待すること」であるし、所掌と思っている人もいるかも知れない。
- ・ ク)「啓蒙活動」より、「啓発活動」のほうが適切ではないか。
- ・ 公の場で、意見を言う場を設けてほしいという項目はどうか。
→「外部から意見を聞く場を作ること」
- ・ 「事故時や緊急時のリーダーシップ」という項目はどうか。

原子力に携わる人や組織についての設問 (10 ページ)

- ・ 前ページまでのように、個別にスケールをつけたほうがなじむのではないか。(ただ聞くだけだと、丸をつけにくいのではないか)
- ・ 「そもそも原子力は道徳的に問題がある」とあるが、「道徳的」という言葉は人格に関わる言葉だ。「倫理的」のほうが適切ではないか。

電気代についての設問 (追加設問案)

- ・ 原子力発電を全て火力発電に代替すると、燃料費から産出すると、1人あたりの電気代は5000円アップになる。選択肢の上限は「5000円以上」が適切ではないか。

以上の議論を基に、社会調査コアグループで調査票の内容を再検討し、最終決定することになった。

3. フォーラム検討グループ進捗報告（配布資料 2-4、2-5、2-7、2-8、2-9、2-10）

木村_浩氏より、資料 2-10 に基づき、現時点で決まっていること、検討すべきことなどの整理が行なわれた。また、検討の結果作成された別紙調査票の内容について、資料 2-7、2-8、2-9 を用いて説明がなされた。その後、議論が行なわれた。

【観察者の目的設定】

- ・ フォーラムの議題設定が鍵であると思う。双方関心が高いという観点から、「廃棄物問題」はどうか。
- ・ 「変化」まで求める必要があるか。社会的リアリティの共有ができれば、それも成果ではないか。（単に「変化」というと、心理学分野では「行動変化」を指す。→この研究のいう「変化」とは何かを定義する）
- ・ 「変化」を検証するのであれば、参加者に何らかの自己申告をさせるべきではないか。（討論型世論調査でそのような手法を用いたことがある）
- ・ 20 人に 5 回欠かさず出席してもらうのは、困難なのではないか。（回数を減らしてはどうか）

【フォーラム案内の文案】

- ・ （特に一般市民からすると）「原子カムラ」を何のために越えるのか、いまひとつ目的がはっきりしないのではないか。
→「一般の市民の方々と、原子力に携わっている方々の相互理解を深めるため」など、分かりやすい文言にしてはどうか。
- ・ いきなり「原子カムラ」という言葉が説明なしで出てくると、混乱を招くのではないか。「原子カムラって知っていますか？」などの導入を入れてはどうか。
→センセーショナルな導入は、下心があるのではないかと警戒される可能性もある。
- ・ 「フォーラム」とは何なのか、説明が必要ではないか。
- ・ 「協力して取り組んでいく」という表現だと、「原子力はやめない」という前提で話が進むと捉えられるおそれがある。「協力して考える」等にすべきではないか。
- ・ 「原子力を含みながらもその他のいろいろな話題」とあるが、どちらかといえば原子力以外の話題のほうが多いのではないか。そのことがはっきり分かる文面にするべき。

文案については、木村_浩氏を中心に再検討することになった。

【アンケートの内容】

- ・ 専門家に対しては、職業の聞き方を工夫すべきではないか。（研究職か事務職か。行政機関か民間企業か等）
- ・ Q9 で、「好感」ではないが、「ご苦勞様」という気持ちを持っている人が丸をつける場所がない。

→「原子力に携わっている人は、大変な仕事をしていると思う」を追加する。
アンケートの内容は、社会調査コアグループを中心に再検討することになった。

【その他】

- ・ 遠方の専門家はやはり時間確保が困難ではないか。専門家もある程度首都圏に絞って選択したほうがいいのではないか。
→メンバーの選択方法は今後も検討する。
- ・ ムラびとは原子力学会員に限定するのか。
→名簿が入手できるのは原子力学会員だけ。技術的限界がある。
→その結果、あまりにも偏りがあるのであれば、1サイクル目の結論としてそれを課題として挙げ、2サイクル目はムラびとに関しては恣意的に選ぶという方法もありうる。
- ・ フォーラムの日程は、毎月第何土曜日のような形がいいのではないか。
→フォーラムの日程はフォーラム検討会議で決定することになった。

4. その他

木村_浩氏より、今後のスケジュールの確認があった。

以上